

## 【物流】

タンクローリーや内航タンカーの大型化など物流システムの効率化で、省エネルギーを推進しています。

### 物流の効率化・省エネルギー

石油製品は、製油所から油槽所やSS（サービスステーション）などに向けて、タンクローリーや内航タンカーなどで輸送します。

コスモ石油では、タンクローリーや内航タンカーの大型化、油槽所の統廃合、他社との共同化など、早くから物流システムの効率化に努め、省エネルギーに取り組んできました。



大型化するタンクローリー（左）や内航タンカー（下）



### 陸上輸送

タンクローリーによる陸上輸送は、製油所や油槽所からSSへ輸送する主要な輸送手段であり、海上輸送と並んで石油国内輸送の約4割を占めています。陸上輸送では、車両の大型化と積付率※1の維持向上により配送1回当りの輸送量を増加することで省エネルギー化を図っています。

2003年度は、1990年度比で20%の削減を達成しています。

2003年度からは単独荷卸しの導入により深夜時間帯の配送が可能となり、交通渋滞の回避による効率化・省エネルギー化に寄与しています。今後も単独荷卸し実施を拡大し、配送効率の向上により省エネルギーを推進します。

### 海上輸送

製油所から物流基地、油槽所などへの輸送には、数百から数千トン級の内航タンカーを使用します。2003年度の内航タンカーの燃料消費量は、販売数量と海上輸送量が前年度に比べて増加したことに伴い、約5%増加し、1990年度対比では約11%の削減となりました。

これまで受入基地の統廃合、共同化などを推進してタンカーを大型化、輸送の効率向上に努めてきました。今後も夜間荷役の推進、高積付率を維持することなどで省エネルギーに努めていきます。

#### ※1 積付率

タンク容量に対する実際の積載量の割合。

### ■ タンクローリーの平均車型と積付率※1

1990年度  
平均車型 15.0kL  
積付率 94.3%



2003年度  
平均車型 19.0kL  
積付率 94.1%



### ■ 内航タンカーの平均船型と積付率

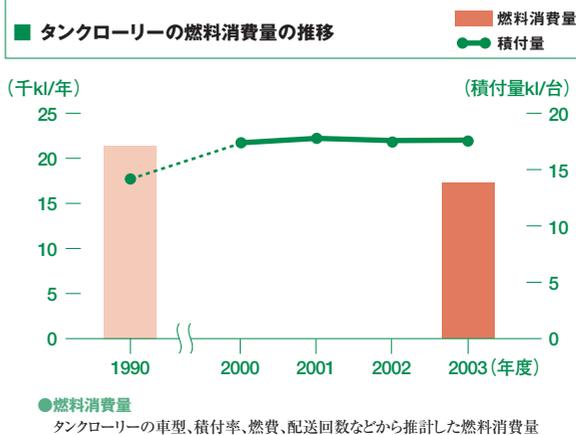
1990年度  
平均船型 1,536kL  
積付率 90.0%



2003年度  
平均船型 2,853kL  
積付率 94.2%



### ■ タンクローリーの燃料消費量の推移



### ■ 内航タンカーの燃料消費量の推移

